

敷島小学校 学校関係者評価書

令和7年2月19日（水）
（敷島小学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和7年2月12日（水）午後3時～

会場：敷島小学校 図書室

参加者：学校関係者評価委員（4名）

小田切 道之 様 松土 仁郎 様 田村 令子 様

窪田 陽 様（PTA代表を兼ねる）

学校側（3名）

校長 加藤 忍 教頭 中山 素 教務主任 宮島 芳文

I 学校側から提案された内容

「令和6年度 敷島小学校自己評価書」について

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 成果と課題について

II 協議された主な内容

- 1 学校教育目標に関して・学校経営について
- 2 学校運営について
- 3 学習指導について
- 4 生徒指導について
- 5 地域との連携について
- 6 学校の特色に関して
- 7 創甲斐教育について
- 8 まとめ(成果と課題)について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

○学校経営方針に従って、様々な教育活動が行われていることがよく分かった。

学校に期待される役割が多岐に及び、教職員の苦労は計り知れないものがある。その中であって、児童が楽しく意欲をもって学校生活を送っていることは教職員の努力と保護者・地域の協力による大きな成果である。

○変化の激しい時代の中で、学校教育の果たす役割は大きい、教員不足という現実がある。教職員にゆとりがないとそれらを充実させることはできないので、過度な負担が生じないように配慮をしていく必要がある。

Ⅱ 特 徴

(1) 学校教育目標・学校経営について

- ・肯定的な回答が多く、教職員の意識の高さや行動力を感じ、教育活動の成果が出ていると思う。
- ・PDCA サイクルを生かすことは重要である。一定の成果も得ているので、先生方には自信を持って教育活動に取り組んでほしい。

(2) 学校運営について

- ・信頼関係の構築は職場の基本である。今後もよりよい人間関係を築いてほしい。
- ・働き方改革も確実に効果を上げているが、さらに児童と向き合う時間の確保と教職員の心身の健康等に今後も取り組んでほしい。

(3) 学習指導について

- ・「先生がよく勉強を教えてくれる」「授業が楽しい」と回答している児童の多さは、学校にとって何より重要である。
- ・ICTを授業に活用することはこれからの未来の子ども達には必要なものでさらに取り組んでほしい。

(4) 生徒指導について

- ・教職員の肯定的な回答率に加え、児童の規範意識の高さや真面目さは本校の落ち着いた教育環境の成果である。
- ・不登校児童やいじめ問題等への未然防止・早期発見に対する対応をきちんと行うとともに、SCや関係機関との連携を図って組織的に行ってほしい。

(5) 地域との連携について

- ・様々な家庭環境がある現実を受け止めながら、これからも積極的な発信・連携を続けてほしい。

(6) 学校の特色・創甲斐教育について

- ・学校行事等を前の通りに戻すのではなく、本当に必要なか検討して精選、絞ることが大切である。
- ・創甲斐教育については、来年度「第3次創甲斐教育」のスタートの年度になるので、その意義や内容を確認しながら、今後も全職員で取り組んでいってほしい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○「人間性豊かな児童」の育成

人は人との関わりの中で成長していく。コミュニケーションを通じた相互理解や集団から生まれる感動体験が人を成長させてくれる。時代や文化が変わっても人間の基本は変わらないので、今後もそのことを念頭に教育活動を進めていく。

○「若手教員の育成」のさらなる推進

欠員や教員不足による学校運営の難しさや困難さが現実問題としてある。教育関係機関にも働きかけをしながら、教員人数の確保や新採用者等の若手育成にもさらに力を入れて取り組んでほしい。

○「幼保小連携」のさらなる強化

幼稚園・保育園との情報交換は毎年行っているが、児童の実態把握や理解不足があり、学級編成が難しい現状がある。さらなる細かい情報交換や情報共有の必要性を実感し、また小1スタートカリキュラムの重要性を再認識し、今後の教育活動にあたっていく。

※特記事項

来年度の「学校運営協議会の新メンバー」（候補者や人数等）の提案が学校長から口頭であった。

